

小学校 第6学年 社会科 「幕府の政治と人々の暮らし」

対象児童生徒	葛巻町立葛巻小学校 第6学年 1クラス (23名)
使用ソフト等	Microsoft Teams、Google Jamboard、Microsoft Forms、PowerPoint、ロイロノート・スクール
端末環境	Windows PC Windowsタブレット 生徒機1人1台・教師機1台
概要	<p>本単元では、江戸幕府の政策について学習問題を設定し、それを追究・解決する活動を行った。この活動を通して、歴史的事象の特色や意味を多角的に考える力や考えたことを適切に説明する力の育成を目指し、以下の学習場面でICTを活用した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童が自ら学習問題を発見する場面でのウェブ会議 (Microsoft Teams)、大型提示装置とPowerPointの活用</li> <li>2 学習問題に対する予想や調査をクラス全体で共有する場面や学習問題を解決する場面、単元の学習を振り返る場面でのGoogle Jamboard、ロイロノート、Microsoft Formsの活用</li> <li>3 授業終了後に学習内容の板書を記録するためのカメラ機能の活用</li> </ol>

1 ICTの活用場面

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習		
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p>		
<p><b>A1 教師による教材の提示</b></p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p><b>B1 個に応じた学習</b></p>  <p>一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p>	<p><b>B2 調査活動</b></p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p><b>C1 発表や話し合い</b></p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>	<p><b>C2 協働での意見整理</b></p>  <p>複数の意見・考えを議論して整理</p>
<p><b>B3 思考を深める学習</b></p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p><b>B4 表現・制作</b></p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p><b>B5 家庭学習</b></p>  <p>情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>	<p><b>C3 協働制作</b></p>  <p>グループでの分担・協働による作品の制作</p>	<p><b>C4 学校の壁を越えた学習</b></p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

「教育の情報化に関する手引―追補版―」2020年6月 文部科学省

## A 1 教師による教材の提示

単元の導入では、PowerPointを活用し、アニメーション機能で帯グラフに動きをつける。これにより、数値を予想しながらグラフの内容を読み取り、児童自ら疑問を抱き、主体的に学習問題を見いだすことができるようにする。

展開では、同じくPowerPointを使用し、教科書に掲載されている資料を拡大提示し、クラス全員で確認する。学習問題の解決に必要な部分に焦点を当てながら、資料がもつ意味を考えながら学習を進めることができるようにする。



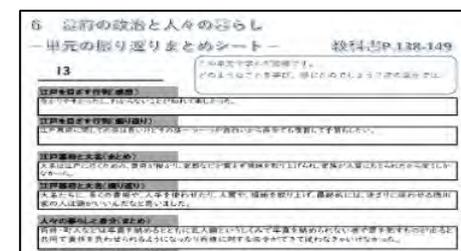
## B 3 思考を深める学習

単元の導入で見いだした学習問題に対する考えをまとめることができるように、以下の三つを活用する。

一つ目は、1単位時間ごとに板書をカメラ機能で撮影する。授業の中で板書できなかつた部分は、指導者がWordで追加し、編集したものをMicrosoft Teamsのクラウドファイルに保存する。これにより、児童がいつでもクラウドファイルにアクセスし、単元の学習内容を確認することができるようにする。

二つ目は、1単位時間の終末でMicrosoft Formsを活用し、学習問題を解決するための過程で感じたことや学んだ成果を自身の言葉で記述する。その後、Excelで編集し一人一人に配付できるよう個票にし、1単位時間や単元全体を通して学んだことを児童自身が自覚できるようにする。

三つ目は、前述の板書記録や個票を見返し、学習内容を想起しながら、ロイロノートのシンキングツール「くらげチャート」を使って、単元の学習問題に対する考えをまとめる。その際、まとめるためのキーワードはくらげの足になる部分に、学習問題に対する考えはくらげの頭の部分に、自分の言葉で説明できるようにする。



## C 2 協働での意見整理

児童一人一人の意見をクラス全体で整理するために、Google Jamboardで一つのスライドを共有し、共同編集機能で個人の意見を記述した付箋を貼る。学習問題に対する予想や歴史文化館の学芸員の方への質問、教科書で調べて分かったことなどを整理する場面で活用し、多くの意見を可視化しながら整理することができるようにする。また、整理する際は、クラス全体で確認しながら行うことができるようにする。



## C 4 学校の壁を越えた学習

博物館や資料館から離れた場所に学校がある場合でも、学習資源を活用できるようにMicrosoft Teamsのウェブ会議を活用し、学芸員の方と児童がリアルタイムに質疑応答できるようにする。また、単元の導入で身近な歴史を扱うことで、歴史学習への興味関心を高めるきっかけにできるようにする。



2 単元の指導と評価の計画（全体6時間）				
時	ねらい	重点	課題	評価方法と【評価規準】
1 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉幕府、室町幕府と江戸幕府の期間を比較し、江戸幕府が他の二つよりも長いことに気付き、学習問題を見いだすことができるようにする。</li> </ul>	思		<b>【思－①】〔発言・記述〕</b> 三つの幕府が政治を行った年数を比較することで問題を見いだしているかを確認する。
	単元の学習問題 なぜ、江戸幕府は鎌倉幕府や室町幕府より長い期間続いたのだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習問題について予想したり、何を調べるのかを考えたりしながら単元の学習に見通しをもつことができるようにする。</li> <li>大名行列が大名にとって大きな負担だったことに気付くことができるようにする。</li> </ul>	態		<b>【態－①】〔発言・記述〕</b> 大名や民衆を厳しく統制したことを予想し、江戸幕府が行った様々な政策を調べる計画を立て、解決の見通しをもっているかを確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>大名たちが幕府から大きな負担をかけられても抵抗することができなかつたことから学習問題を見いだすことができるようにする。</li> <li>武家諸法度や大名の配置、幕府領と各地の大名領の比較から調べたことを関連付けて、幕府と大名がどのような関係になっていたのかを明らかにできるようにする。</li> </ul>	知		<b>【知－①】〔記述〕</b> 「抵抗しそうな大名を江戸から離して配置するなどの工夫や大名に対する法令（武家諸法度）を定めたことで全国の名門を統制したことを理解しているか」を確認する。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>幕府への抵抗勢力は大名だけなのかを考えることから民衆の統制について問題を見いだすことができるようにする。</li> <li>身分制について調べることで、江戸幕府の人々に対する支配の仕組みを明らかにできるようにする。</li> </ul>	思		<b>【思－②】〔記述〕</b> 「江戸時代の身分制について調べ、関連付けたり総合したりして、江戸幕府の人々に対する支配の仕組みを文章で説明しているか」を確認する。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>幕府の外交政策の変化から鎖国政策について問題を見いだすことができるようにする。</li> <li>鎖国の経緯を明らかにできるようにする。</li> </ul>	知		<b>【知－①】〔記述〕</b> 「江戸幕府が外国との交流を絶った経緯を理解しているか」を確認する。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>鎖国を行う上での弊害を考えることで、鎖国下での外交について問題を見いだすことができるようにする。</li> <li>鎖国をすることによって、幕府の政策や人々の生活にどのような影響が出るのかを明らかにできるようにする。</li> </ul>	知		<b>【知－①】〔記述〕</b> 「鎖国下において一部の外交を続けることで幕府が貿易や海外の情報を独占したことを理解しているか」を確認する。
6	単元の学習問題のまとめ（例） 江戸幕府が他の幕府よりも長く続いたのは、武士による政治を安定させるため（長く続けるために、参勤交代や鎖国、身分制などの仕組みを整えたから。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習で身に付けた知識を関連付けて文章にまとめ、江戸幕府が行った様々な政策の意図を明らかにできるようにする。</li> <li>武士の政治が安定することで人々の生活にどのような影響が出るのかを明らかにできるようにする。</li> </ul>	知	○	<b>【知－②】〔記述〕</b> 「江戸幕府が行った様々な政策により武士による政治が安定したことを理解しているか」を確認する。
		思	○	<b>【思－②】〔記述〕</b> 江戸幕府の様々な政策を関連付けたり、総合したりして、政策の意図を考え、文章で記述したり説明したりしているか」を確認する。

3 ICTを活用した授業例（第1時）	
本時の目標	江戸幕府が鎌倉幕府、室町幕府よりも長い期間続いたことに着目し、主体的に学習問題を見いだし、答えを予想し、どのようなことを調べれば解決できるか学習計画を立てることができる。

○指導過程

	学習活動	指導上の留意点 (◇評価 【 】 評価の観点 ■活用するICT機器等)
導入 5分	1 前時までの既習事項から学習問題を見いだす。  2 単元の学習問題を把握する。  単元の学習問題 なぜ、江戸幕府は鎌倉幕府や室町幕府より長い期間続いたのだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大型提示装置、プロジェクター、PowerPoint 教師による教材の提示 [A1]</li> <li>・前時に扱った「江戸凶屏風」を提示し、これから江戸幕府が行った政策の学習に入ることを確認する。</li> <li>・鎌倉幕府、室町幕府、江戸幕府の期間を比較し、それぞれの時代が続いた長さに着目できるようにし、学習問題につなげる。</li> </ul> <p>◇江戸幕府が他の幕府よりも長く続いたことに着目し、問題を見いだしているかを確認する。【思考・判断・表現】</p>
展開 30分	3 単元の学習問題について予想する。 (例) 幕府の命令に従わなかったときには、厳しい罰を与えるような決まりを作ったから。  4 課題解決のための見通しをもつ。  5 盛岡藩の大名行列について、どのような政策だったのか学芸員の方にインタビューをする。  6 学芸員の方からの回答を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当て推量にならないように、伝聞や書籍、テレビなどから得た情報を根拠に予想できるようにする。</li> <li>・多様な考えを収集し、左に記載したような考えに焦点化する。</li> <li>・江戸幕府が行った政策と意図について教科書や資料集に掲載されている資料を使って調べれば課題解決につながることに気付くことができるようにする。</li> <li>・どのような政策を行ったか知っていることはないかを問い、出てこなかった場合には、教師側で大名行列を紹介する。</li> <li>◇大名や民衆を厳しく統制したことを予想し、江戸幕府が行った様々な政策を調べる計画を立て、解決の見通しをもっているかを確認する。【態度】</li> <li>■ウェブ会議 (Microsoft Teams)、大型提示装置 学校の壁を越えた学習 [C4]</li> <li>・加賀藩 (石川県) の大名行列の想像図から気付いたこと、疑問に思うことを書き出すことができるようにする。</li> <li>・盛岡藩 (岩手県) では行われていなかったのかについて歴史上の事象が身近な話題となるように配慮する。</li> <li>・児童から出された気付きや疑問について学芸員の方から説明してもらおう (このような調べ学習もあることを伝える)。</li> <li>・説明の様子を録画しておく。</li> <li>・黒板にまとめ、授業終了後にタブレットのカメラ機能で板書の内容を撮影する (学習記録として撮影することを児童へ伝える)。</li> <li>・次時へのつなぎとして、大名にとって大きな負担だったことは必ずクラス全体で確認する。</li> </ul>
終末 10分	7 本時の学習についての感想を書く。  8 次時への見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■タブレットPC、Microsoft Teams、Microsoft Forms 思考を深める学習 [B3]</li> <li>・振り返りフォームに本時の学習の進め方について感想を打ち込むことができるようにする。タイピングに自信のない児童へは、手書き用の学習シートを配付する (児童が選択できるようにする)。</li> <li>・本時で解決できなかった疑問を次時の学習問題に設定して解決していくことを伝える。</li> </ul>

## 4 ICTを活用した学習活動の様子

### 【A 一斉学習】 A1 教師による教材の提示（第1～6時）

#### （1）単元や1単位時間の導入で学習問題を見いだす場面

児童が主体的に学習問題を見いだすことができるようにするために、単元や1単位時間の導入において、指導者がPowerPointで作成した資料をプロジェクターで投影し、クラス全体で読み取りを行った。

単元の導入では、グラフ資料の読み取りを行った。時代の古い順に表示し、年数が右側に伸びるようにグラフにアニメーションをつけ、三つの幕府が政治を行った年数を予想しながら比較できるようにした（図1）。グラフが伸びる様子に、「もっと伸びろ！」「もっといけ！」などの声が児童の中から自然と上がり、関心をもった様子がかがえた。また、江戸幕府が他の幕府より明らかに長く続いたことを読み取り、「なぜ、長く続いたのか」という疑問から学習問題につなげることができた。

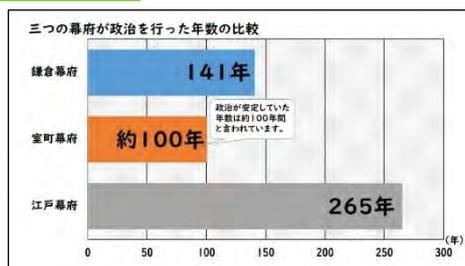


図1 単元の導入で使用したグラフ

第2時の導入では、第1時の最後に児童が抱いた新たな疑問を生かした学習問題を設定した（図2）。児童が新たに抱いた疑問の根拠となる資料を提示し、その後、根拠と矛盾する資料を提示した。児童たちは、将軍に頭を下げている大勢の大名たちに気付き、なぜ、大名行列のような重い負担をかけられたのに頭を下げているのだろうという疑問から学習問題を見いだすことができた（図3）。

前回の授業（江戸を目ざす行列）の振り返り

【新しく知ったこと】  
今日、話を聞いてみて岩手でも行列を作っていたことにびっくりしました。盛岡藩や八戸藩などの人たちは時間とお金をかけて江戸を守りに行っていたのが大変だと感じました。

【新たな疑問】  
・なぜ、そんなに人が必要だったのか。  
・なぜ、江戸の周りだけでなく、各地の大名を集めたのか。  
・なんで行列を作るのかわからなかったけど、江戸を守るためののを知れた。  
・わざわざ、盛岡の人に守らせようとするのかわからなかった。  
・行列のときに使う費用をどうやって集めていたのを知りたいです。

図2 児童の新たな疑問

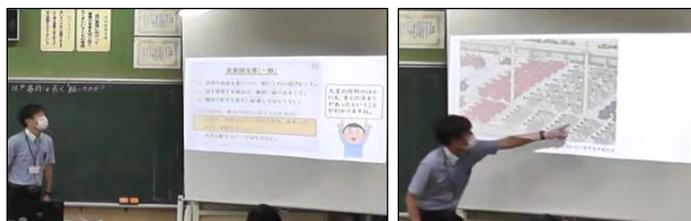


図3 児童の新たな疑問の根拠となる資料（左）とそれに矛盾する資料（右）

#### （2）1単位時間の展開で資料をクラス全体で確認する場面

児童が設定した学習問題を解決するために、解決に必要な部分に焦点を当てたり、資料がもつ意味を確認したりする際に教科書の資料を拡大提示した。第6時では、学習問題に対する考えをまとめる前段階として、教科書の年表資料を基に鎖国の経緯をクラス全体で確認した（図4）。児童は、教科書の資料の意味を理解した上で、それぞれの歴史的事象を関連付けたり、総合したりして学習問題に対する考えをMicrosoft Formsやロイロノートに記述した。



図4 教科書の資料提示

### 【B 個別学習】 B3 思考を深める学習（第1～6時）

第6時は、単元の導入で見いだした学習問題に対する考えをまとめる時間とし、1単位時間ごとに学習してきた歴史的事象を関連付けたり総合したりして江戸時代が始まった頃の社会の様子を考え、文章で記述したり説明したりすることができるよう、以下の三つを活用した。

一つ目は、1単位時間ごとの学習の履歴を残すため、授業終了後に板書の内容をタブレットのカメラ機能で記録したことである。限られた授業時間の中で板書できなかった部分は、指導者がWordで追加し編集した（図5）。指導者がその板書記録をMicrosoft Teamsのクラウドファイルに1単位時間ごとに保存することで、児童はいつでも学習した内容を振り返ることができるため、ノートに代用とすることができた（図6）。児童の振り返りの中には、「ノートにメモをするときは、追いつかない時があったので最後のときに写真を撮って送ってくれたのが便利だった」という記述があった。



図5 板書の記録

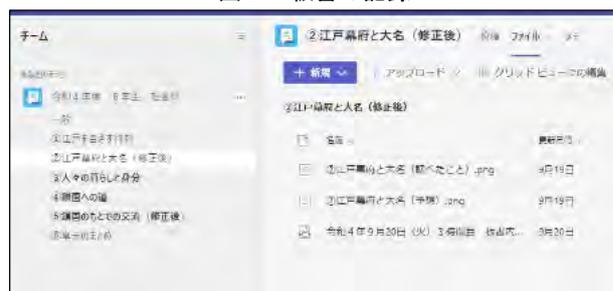


図6 クラウドファイルへの保存

二つ目は、授業で学んだことを児童が自覚できるようにするために、単元や1単位時間の終末にMicrosoft Formsを活用し、学んだことの振り返りを記述したことである(図7)。その後、Microsoft Formsに入力したデータをダウンロードし、毎時間の記録を個票にし、第6時と単元の学習がすべて終了した時点で児童に配付した(図8)。第1時は、ウェブ会議を活用しての授業が初めてということで、ウェブ会議を体験してみたの感想を記述した。児童の感想からは、ほぼ全員が「分かりやすい。詳しい方から話を聞くことができたくさん学ぶことができた」や「もっともっと歴史の事に詳しくなりたいし興味ももてた」という記述が見られた。また、大名行列の様子を学習した後に「なぜ、そんなに人が必要だったのか」や「なぜ、各地の大名を集めたのか」等のような新たに生じた疑問を記述する児童も見られた。第2時以降は、1単位時間の学習問題に対する考えも併せて記述した。

「江戸を目ざす行列」振り返りシート

- あなたの番号と氏名を教えてください。  
 答えの選択
- 学習員の方にオンラインで授業に参加してもらった感想を書いてください。  
 回答を入力してください
- 今日の授業を受けて、「新しく知ったこと」や「新たに疑問に思ったこと」、「さらに興味をもったこと」があれば記入してください。  
 回答を入力してください

図7 Microsoft Formsの内容

図8 児童の記述(左)と児童に配付した個票(右)

幕府が行った大名の支配について、「外様の地位の大名を遠くに配置することで、参勤交代で費用がより多くかかる中、不満が募り戦いを挑もうとしても、参勤交代の費用や妻や子供のこともあり、決まりに逆らうことができなかった」のような記述が見られ、1単位時間の児童の理解度を確認し、学習改善につなげる評価を行うための資料にすることもできた。

三つ目は、第5時まで学んだ歴史的な事象を関連付けて説明するために、ロイノートシンキングツールの「くらげチャート」を活用したことである(図9)。様々なシンキングツールの中から、今回は、自己の意見の根拠を明らかにし、理由付けをする際に適したくらげチャートを使用することにした。第6時の授業の前半では、指導者主導で第5時までの学習を振り返り、学習問題のまとめにつながりそうな歴史的な事象をクラス全体で確認した。その後、児童それぞれが自身の意見の根拠となりそうな歴史的な事象をキーワード又は短文でくらげの足の部分に記述し、最後にくらげの頭の部分に自己の意見の説明を記述することができた。児童たちは、江戸幕府が長く続いた理由を説明しようと何度も打ち込んだり消したりしながら、よりよいまとめになるように推敲していた。中には、カメラで記録した板書記録を見て、第5時まで学習したことを振り返りながらチャートに打ち込む児童も見られた(図10)。

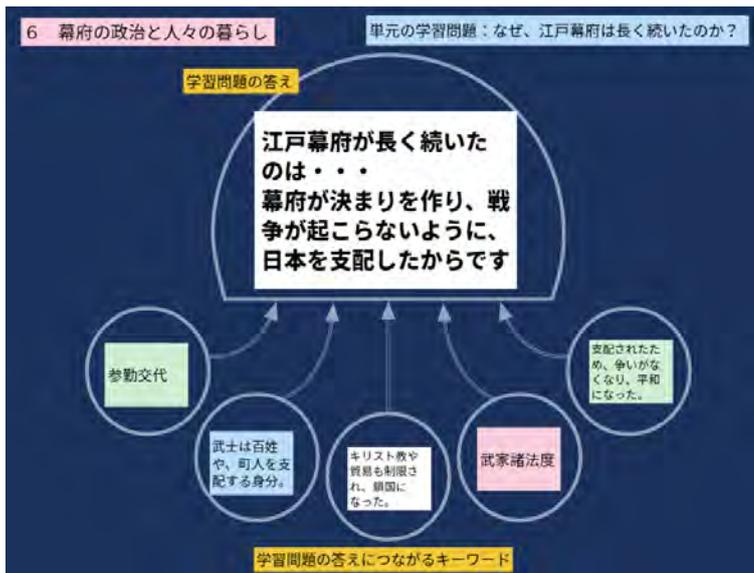


図9 シンキングツールに記述された児童のまとめ

以上の三つのことから、単元の導入で見いだした学習問題に対する考えをまとめるために、1単位時間ごとの学習の履歴を記録したデジタルの教材を用いたり、シンキングツールを活用したりして、思考を深める学習が実践できたと考える。

第6時の授業の前半では、指導者主導で第5時までの学習を振り返り、学習問題のまとめにつながりそうな歴史的な事象をクラス全体で確認した。その後、児童それぞれが自身の意見の根拠となりそうな歴史的な事象をキーワード又は短文でくらげの足の部分に記述し、最後にくらげの頭の部分に自己の意見の説明を記述することができた。児童たちは、江戸幕府が長く続いた理由を説明しようと何度も打ち込んだり消したりしながら、よりよいまとめになるように推敲していた。中には、カメラで記録した板書記録を見て、第5時まで学習したことを振り返りながらチャートに打ち込む児童も見られた(図10)。



図10 学習記録を見る児童

## 【C 協働学習】 C2 協働での意見整理（第1～5時）

学習問題の解決に向けて、予想したことや調べて分かったことをクラス全体で共有するために、Google Jamboardの共同編集機能を活用した（図11）。自分の考えや調べて分かったことを付箋で貼り出すと、他の児童の画面にも同様の付箋が表示され、他の児童がどのような考えをもっているか、一目で分かる機能である。意見を整理しやすいように、名簿番号を記載すること、なるべく短い文にすること等、必要最小限の指示を出した。また、自分の考えをもつことができない児童については、他の児童が出した考えと同じならば、同じ内容を貼ってもよいことにした。多くの児童がタイピングによる文字入力で自分の考えをスムーズに貼り出すことができ、教科書にある本文や資料から学習問題の解決につながりそうな内容を多数発見することができていた。最初は任意の場所に自由に貼り出していたが、指導者が何枚か整理する方法を実演すると、児童は同じように整理し始め、単元の後半には自分たちで付箋を動かして、同様の意見をまとめる段階までできるようになった。

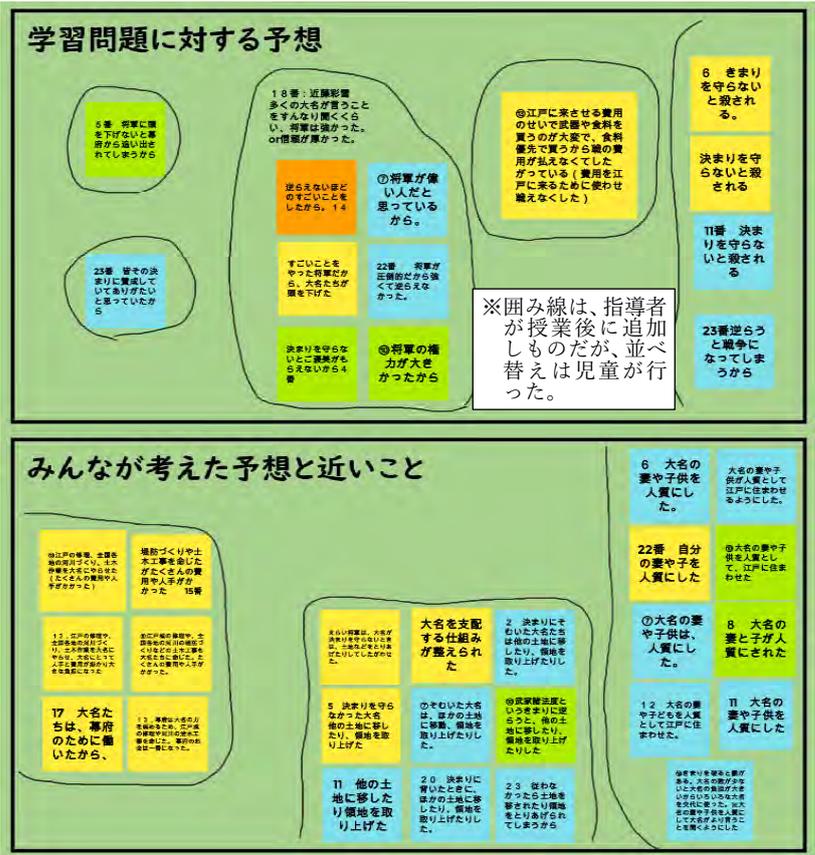


図11 Google Jamboardの共同編集機能による意見整理

## 【C 協働学習】 C4 学校の壁を越えた学習（第1時）

単元の導入では、ゲストティーチャーとして歴史文化館の学芸員の方を招き、身近な地域の歴史から学習を開始することにした（図12）。教科書の資料では、加賀藩（現：石川県）の大名行列の資料が掲載されているが、盛岡藩（現：岩手県）と八戸藩（現：青森県八戸市、葛巻町も八戸藩領）について説明いただくことで、自分たちの地域にも関係が深いことを学習するという意識をもたせたいと考えた。今回の授業を行うにあたり、事前の打ち合わせを1回行い、Microsoft Teamsへのゲスト招待を完了させておき、当日は、授業開始前にウェブ会議を立ち上げ、学芸員の方がいつでも参加できるようにしておいた。

第1時の授業の中で、児童たちは学習問題を解決する方法として、教科書やインターネット検索を活用した調べ学習を真っ先に挙げた。しかし、本ICT実践の授業を行うに当たり、事前に教育センターと葛巻小学校との接続テストを行ったことを想起させると、児童たちはオンラインによるウェブ会議が使えることに気付いた。実際にウェブ会議を活用して歴史文化館の学芸員の方とつながることが分ると児童の中から自然と歓声が上がった。また、このような形式の授業では、児童が説明を聞きメモを取るだけの受動的な授業になる可能性があるが、これを解消するために、インタビューの前に教科書を参考にして質問内容を自分たちで考える時間を設定し、クラスの代表者が質問するようにした。自分たちが抱いた疑問を解決しようと真剣に話を聞いている児童の様子が見られ、学校から離れた場所にある学習資源を生かすことが、児童を主体的に学習に向かわせる上でいかに効果的であるかということが分かった。



図12 学芸員の方とのウェブ会議の様子

これを解消するために、インタビューの前に教科書を参考にして質問内容を自分たちで考える時間を設定し、クラスの代表者が質問するようにした。自分たちが抱いた疑問を解決しようと真剣に話を聞いている児童の様子が見られ、学校から離れた場所にある学習資源を生かすことが、児童を主体的に学習に向かわせる上でいかに効果的であるかということが分かった。

## 5 ICTを活用したことによる学習の成果と指導上の留意点

### 【学習の成果】

#### 1 一斉学習について

##### 児童の問題意識を醸成した上での学習問題の設定

PowerPointのアニメーション機能によって作成したグラフは、動きがあるので児童の興味関心を引き出すことができると考える。また、視覚的に比較しやすく、三つの幕府の存続期間について正確に理解していなくても、自然に疑問が生まれ、学習問題を見いだすことが可能になると考える。

#### 2 個別学習について

##### 学んだことを活用したり自覚したりする活動の充実

学習内容の板書をカメラ機能で記録することにより、授業後に板書の内容を編集したりクラウドファイルに保存したりすることが可能となった。第6時に行ったロイロノートでの「くらげチャート」の作成では、板書の記録を確認しながら記述する児童の姿が見られ、学んだことをアウトプットしながら単元の学習問題に対する考えをまとめることができた。このことから、本単元の学習において何をどのように学んだのかを自覚することができるようになったと考える。また、1単位時間ごとの振り返りをデータ化したことで、児童の考えを可視化し学級全体で共有することが容易になった。第2時以降の導入で学習問題を見いだす際、振り返りに記述された児童からの新たな疑問を生かすことによって児童の主体的な学びにつなげることができたと思う。さらに、今回の実践では実現できなかったが、葛巻小学校は端末の持ち帰りを行っており、クラウドファイルに各家庭からアクセスすることで、家庭学習等での活用が想定され、発展的な学習にもつながる可能性があると考えられる。

#### 3 協働学習について

##### (1) 多様な意見を瞬時に共有できることの効果

指導者が児童を指名したり児童が自ら挙手したりして発言する場合とGoogle Jamboardの共同編集機能を活用して意見を表明する場合とを比較すると、後者の方が多く自分の意見を表明できるようになった。自分の席に座ったまま入力するだけで意見表明できるので、挙手によるものと比較して抵抗感が少ないのではないかと考える。振り返りにも半数の児童が、「みんなの意見をすぐに見ることができてよかった」、「意見の交流が簡単になった」等のように記述しており、Google Jamboardの活用について肯定的な意見が多く、自分の考えを積極的に表明することができる授業が実践できた。また、クラス全体の意見表明の様子を付箋によって可視化することで、他の児童の意見も容易に参考にすることができるようになった。これも多くの児童が意見表明できるようになった一因だと考える。

##### (2) 学校から離れた場所にある学習資源の有効活用

ウェブ会議を活用したことにより、現地に行くことでしか実現できなかった専門家へのインタビューを行うことができ、本単元の学習に向けた児童の興味関心を高めることができたと思う。また、教科書や資料集には掲載されていない、歴史文化館所蔵の資料をMicrosoft Teamsの画面共有機能で提示ことができ、間接的ではあるが本物の資料に触れることができた。

### 【指導上の留意点】

#### (1) 問題解決的な学習過程におけるウェブ会議の活用

本実践では、ウェブ会議の経験がほとんどない児童が対象であったため、指導者からウェブ会議を提案する方法をとったが、今後は児童が主体的に学習問題の解決に活用できるようになると考える。事前の指導は必要だが、授業中の児童からの提案で指導者が外部の方につないだり、児童が自ら繋いだりすることが可能になってくると考える。世の中で働く様々な方々から話を聞くことは、人々の営みを学習する社会科にとって大変重要なことであり、これが学校にいながら可能になったことは、ICTの活用なしでは実現しなかったことである。社会科にとどまらず総合的な学習の時間等、教科等横断的な活用ができるようになると思う。

#### (2) ICT機器の日常的な使用について

ICTを有効に活用するためには、児童が日常的にICT機器を使用する環境が整わなければならないと考える。実践校では、児童が日常的にタブレットを持ち歩いており、委員会やクラブ活動で活用していたり、授業以外でも調べたいことがあるときは、自分でインターネットで検索したりしていた。日頃から手元に置いておき、いつでもICT機器を活用できるような環境を作る必要があると思う。